【新二年生用】 古文単語330三訂版 Ｐ４８～Ｐ５７

［Ａ］次の古語の訳語として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

1 ふみ
①返事　②和歌　③手紙　④文体

2 おろかなり
①無関係だ　②愚かだ　③おろそかだ　④大切だ

3 なさけ
①遊び心　②人望　③思いやり　④縁故

4 ものがたり
①遊び　②手紙　③雑談　④機会

5 あはれなり
①しみじみと心打たれる　②いつもと同じだ　③趣深く新鮮だ　④情けない

［Ｂ］次の文の（訳）の〔　　〕に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

6 船も出ださでいたづらなれば、ある人の詠める。（土佐日記）
（訳）船も出さず〔　　〕ので、ある人が詠んだ（歌）。
①行くあてもない　②退屈でもの寂しい　③落ち込んで憂鬱な　④手持ちぶさたで暇な

7 その人、かたちよりは心なむまさりたりける。（伊勢物語）
（訳）その人は、〔　　〕よりは心がすぐれていた。
①容貌　②以前　③行動　④評判

8 御灯明の影ほのかに透きて見ゆ。（源氏物語）
（訳）お灯明の〔　　〕がほのかに（御簾を）透けて見える。
①形　②陰影　③火　④光

9 つれづれなる時は、これを友として遊行す。（方丈記）
（訳）〔　　〕時は、これ（＝小童）を友としてぶらぶら歩く。
①心が空虚な　②することもなく退屈な　③もの寂しい　④ものに熱中している

10 同じほど、それより下の更衣たちは、ましてやすからず。（源氏物語）
（訳）同じ〔　　〕、（あるいは）それより低い地位の更衣たちは、なおさら気持ちが穏やかでない。
①程度　②年齢　③服装　④身分

11 つひに本意のごとくあひにけり。（伊勢物語）
（訳）しまいに〔　　〕どおり結婚した。
①慎重な計画　②親の期待　③二人の約束　④かねてからの願い

12 足もとへふと寄り来て、やがてかきつくままに、首のほどを食はんとす。（徒然草）
（訳）足もとへさっと寄って来て、すぐに飛びつくと同時に、首の〔　　〕に食いつこうとする。
①あたり　②裏側　③急所　④全体

13 文太といひて、年ごろの者あり。（文正草子）
（訳）文太といって、〔　　〕召し使われている者がいる。
①長年　②最近　③成人して　④少し前から

14 狩りはねんごろにもせで、酒をのみ飲みつつ、やまと歌にかかれりけり。（伊勢物語）
（訳）鷹狩りは〔　　〕もしないで、酒ばかり飲んでは、和歌を詠むのに熱中していた。
①熱心に　②上手に　③すぐに　④ほどほどに

15 おそろしなんどもおろかなり。（平家物語）
（訳）恐ろしいなどという〔　　〕。
①のは臆病者だ　②言葉では言い尽くせない　③言葉は聞きたくない　④のは愚かなことだ

1〔　　〕　2〔　　〕　3〔　　〕　4〔　　〕　5〔　　〕　6〔　　〕　7〔　　〕　8〔　　〕　9〔　　〕　10〔　　〕　11〔　　〕　12〔　　〕　13〔　　〕　14〔　　〕　15〔　　〕

解答

【新二年生用】古文単語330三訂版 P48～P57

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
③	③	③	③	①	④	①	④	②	④	④	①	①	①	②